

自分の命、大切な人の命を守るために～洪水想定避難訓練を実施しました～

7月1日(水)、気候変動に伴う近年の激甚な水害に備え、野呂川の氾濫を想定した洪水避難訓練を実施しました。呉市が定める「防災週間」に合わせ、生徒・教職員一同が緊張感を持って真剣に取り組みました。

①【命を守る最優先の行動】野呂川氾濫を想定した「垂直避難」



「訓練。野呂川が氾濫する可能性があります。全校生徒は先生の指示に従って校舎3階に避難しなさい」——教頭先生による緊急放送が響き渡り、訓練がスタートしました。

今回の訓練の最大の目標は「私語をせず、速やかに避難し、3分以内に全員の安全を確認すること」です。生徒たちは授業者の指示に従い、一刻を争う状況を意識しながら、素早く上の階へと移動する「垂直避難」を行いました。

本校が位置する安浦町は、平成30年7月の西日本豪雨で野呂川が決壊し、甚大な浸水被害を受けた歴史があります。最悪の場合、学校周辺は「2.3メートル(1階が完全に水没する深さ)」まで浸水するリスクを抱えています。そのため、高さ約6メートルにある校舎3階(各教室、ICT教室、音楽室)が、私たちの命を守る最も重要な砦となります。

生徒たちはお互いに声を掛け合い、パニックを起こすことなく、非常にスムーズに避難を完了させることができました。

②【共助と連携】引き渡し導線の確認と体育館への整然とした移動



垂直避難で安全を確保した後は、大雨洪水警報などの発令時に行われる「保護者への引き渡し」を想定した訓練へと移りました。

教頭先生の指示により、1年生から順に、実際の引き渡し時を想定したルート（導線）を通して体育館へと移動しました。体育館では、代表委員から担任、学年主任、そして生徒指導主事の高岡先生、教頭先生、校長先生へと、一寸の無駄もない人員点呼と報告の連携が行われました。

中学生は、ただ「守られる存在」ではなく、いざという時には周囲を助ける「地域の支え手」となる過渡期にあります。体育館に集まった生徒たちの引き締まった表情からは、集団の秩序を維持しようとする高い規律と協調性が感じられました。

③【生きる力を育む】心に刻む校長講話と防災小テスト

避難行動の後は、校長先生からの講評が行われました。



校長先生からは、西日本豪雨時の安浦町の生々しい濁流の記憶とともに、「地震と洪水の避難の違いは、洪水には『事前に早く避難する時間』があること。早く動くほど命を守る選択肢が増える」という極めて重要な教えが伝えられました。そして、「今日家に帰ったら、必ず家族とハザードマップを見て、我が家の避難計画を話し合ってください」と話されました。

訓練の締めくくりには、「防災小テスト」です。覚えていますか？

問①：洪水が発生すると何メートルの水位まで達するか？（正解：2.3m）

問②：自分の命を守るため、学校では何階のどこに避難するか？（正解：3階の指定教室）

生徒たちは全員が正解を答えることができるはずです。今日の学びをしっかりと頭に刻み込んでおきましょう。

【学校より一言】

中学校における防災教育の真の目的は、単に指示通りに動くことではなく、予測困難な災害に直面した際に自ら判断して生き抜く「自助」、そして地域を支える「共助」の力を育むことです。

ご家庭でもぜひ、本日の訓練を話題にいただき、「いざという時の我が家の備え」について話し合うきっかけにいただければ幸いです。